

紙風船

代々木の春。

板塀の上には覆ひかぶさる様に庭内の並木の櫻が咲き盛つて居る。ふら／＼と其の下へ來ると幅一尺ばかりにあげてある塀の裾から大きな紙風船がころ／＼と轉げ出た、それが丁度足もとであつたのでおやつと思つて立ち止ると、同時に塀の中で可愛らしい子供の笑聲が聞えた。

「あら、何處へ行つたんでせう」

といふ聲も聞へる。空氣草履が何かで二三人芝生の上を馳けてゆくらしい音も聞へる。私もなんだか面白くなつて暫く立つたまゝ、赤と黄と青とで張り分けて其の紙風船を見て居る。風船は路傍の草にかゝつて呑氣な顔をして居る。

すると急に塀つゞきの向ふから再び高い笑ひ聲と共に「居てよく／＼」といふ可愛らしい聲が聞えた。見ると大きな御門の前に小さな嬢ちゃんやんの笑みこぼれた顔が三つ並んでこつちを見て居る。

あの時の私の顔もどんなに笑みこぼれて居たる

う。櫻も可笑しさに堪えられぬ様にはら／＼と散りかゝる。

植物園傍の坂を小さな紙風船がころ／＼と轉

つて來る。坂の上からはおつ母さんに手をひかれ四歳位の子供が、あら／＼と言つて手をふつて騒いで居る。左腕に風呂敷包みを抱へたおつ母さんは其の子の手をひきながら追つかけて來るが風船の方が餘程早い。櫻には遅い頃の例の風の強い日であつた。

坂の下からは先づ葉巻をくわへた老紳士が來た。笑ひながらストラッキで風船を抑へようとしたが、風船がころ／＼と抜けてゆくので其のまゝ坂を昇つて仕舞つた。次には女學校の生徒が二人連れで來た。風が強いので二人とも袴の裾を抑へる様にして歩いて居る、風船が丁度二人の間へころけて來たので小さな聲で「おほ／＼」と笑つて行き過ぎて仕舞つた。其の次には空車をひいた小僧が來た。此の小僧さんだけは坂の下から風船に目をつけて、無邪氣な笑ひ顔をして坂路を右へ左へ

風船を追つかけて居る。それが車をひきながらだから中々六づかしい風船はまた下へ抜けた。其の次は私の番になつた。そして子供の泣きをとめてやつたあの時の功一級は私のものであつた。

雑録

本會總會

本月廿一日フレイベルの記念日を期して本會の總會が開かれます。午前九時二十分より、東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て開會のこと、及び會の順序次第は本號の廣告欄に就て御詳知を願ひます。東京高等師範學校教授大瀬基太郎氏が本會の請を容れ其該博なる教育史上の御研究から、フレイベルに就てお話し下さる事は、當日此の偉人を記念するに最もよき紀念の法であると信じます。又法學博士小河滋次郎氏も本會の請を御快諾下さつて兒童保護の問題に關し有益なる講話がある筈であります。同博士が此の方面の御研究に深いこと、吾々幼児教育に従事するものが此の方面の智識を要すべきは茲に更めて申す迄もありませんが、博士が各地の幼稚園を實地御調査になつて兒童保護の見地から平生抱懐せらるゝ御高見を伺ひ得ることは吾々にとつて殊に興味多きことであります。其の他二三の計畫もありまじし、會員諸君の多數御來會下さる事を御待ち致して居ります。尙有益なる御講演の利益を廣くお預りし度いと思ひ會員外の御婦人方の御來聽をも歓迎致します。

本誌定價

一冊 郵稅共金拾壹錢 六冊前郵稅共六拾錢
拾二冊同金壹圓貳拾錢 郵券代用一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に御送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます。

- イ (庶務上保姆紹介に關する件をも含む) の御手紙は東京市小石川區久堅町七十四番地フレイベル會事務所宛
- ロ 會計事務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、兩森劍宛
- ハ 本誌編輯の御用務(寄稿、廣告)等は東京市外千駄ヶ谷倉橋惣三宛

明治四十五年四月一日印刷
明治四十五年四月五日發行

編輯兼發行者 倉橋惣三
東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町大字千駄ヶ谷八七八

印刷者 平井登
東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場
東京市小石川區久堅町七十四番地

發行所 フレイベル會